

別記様式2-2号



視察研修等報告書

令和7年8月8日

坂井市議会

議長 佐藤 寛治 殿

会 派 名 チャレンジさかい

報 告 者 三宅小百合

1. 日 時 令和7年7月28日（月）～7月29日（火）2日間
2. 視察研修先 滋賀県大津市唐崎2丁目13-1
全国市町村国際文化研修所 JIAM
3. 視察研修内容 日々めまぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、様々な行政課題について学び、施策を提案・実施していくことが求められている。今後のわがまちの未来や地方行政に求められる役割について多角的に考えていく。
 - ① 「真の意味での持続可能な都市を目指して」
神戸市長 久元 喜造 氏
 - ② 「地域の魅力を引き出す文学の力」
文芸評論家 三宅 香帆 氏・小説家 宮島 未奈 氏
 - ③ 「明日を生きるために一人文知を地域に生かすー近世国学から学ぶ」
國學院大學神道文化学部 教授 松本 久史 氏
 - ④ 「みんながやりたい場所をつくる廃校利活用施設
『いいかね Palette』の運営について」
株式会社 BOOK 代表取締役会長 樋口 聖典 氏
4. 参加者 三宅小百合

5. 内容詳細

① 「真の意味での持続可能な都市を目指して」 神戸市長 久元 喜造 氏

神戸市長・久元喜造氏は、自治体経営の前提として人口減少を重視し、国の人口推計が現実には追いついていない現状を批判。2024 年には出生数が 70 万人を下回り、予測を大きく上回る速さで少子化が進行している。都市圏では東京への人口集中が進み、地方の多くは減少傾向。神戸市も人口減少に直面しており、特に分譲型タワーマンションの持続可能性に疑問を持つ。維持管理の合意形成や災害対応など多くの課題があり、神戸市は新規分譲マンション建設の制限や空室税の検討を進める。

また北神急行電鉄の買収によって交通費を引き下げ、市民生活の利便性を向上。駅周辺への居住を促進し、都市のスポンジ化に対抗する。空き家問題に対しては老朽家屋の解体補助を実施。さらに森林・里山の再生活動に力を入れ、炭焼きや林業を新たな産業として育成する方針も示す。市民参加を促し都市と自然の共生を図る。国の交付金制度にも柔軟に対応し、国会議員と連携して積極的な政策形成に取り組んでいる。

② 「地域の魅力を引き出す文学の力」

文芸評論家 三宅 香帆 氏・小説家 宮島 未奈 氏

2024 年に本屋大賞を受賞した「成瀬は天下をとりにいく」は、地域のリアルな描写と大津市の商業施設や風景、地元の人々の暮らしを丁寧に描いており、読者にこの地域への関心を促している。作家が意図した訳ではないが、作品に描かれた舞台が聖地となり、ファンが舞台を訪れる「聖地巡礼」的な動きもあり、地域への来訪者の増加につながっている。地方からでも文化を発信できるという希望を示している。

③ 「明日を生きるために一人文知を地域に生かすー近世国学から学ぶ」

國學院大學神道文化学部 教授 松本 久史 氏

国学は日本古代の文献を基に独自の歴史・信仰・倫理・宇宙観を実証的に研究する学問で、地域文化のコーディネーターとしての役割も担ってきた。江戸時代以降、国学者は古典を庶民に普及させ、地域文化や信仰を理論化し、地域社会に貢献した。荷田春満、賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤らが中心人物で、古事記や万葉集の注釈を通じて精神性を解明。篤胤は「ムスヒ」信仰を農業理論に応用し、庶民にも広めた。国学者は地域の地誌編纂や文化財保護にも関与し、民俗学の形成にも寄与。近代では草莽の国学者が社会問題に取り組み、地域のアイデンティティづくりを支援。国学の知は今後も地域振興に活用可能とされた。

④ 「みんながやりたい場所をつくる廃校利活用施設

『いいかね Palette』の運営について」 株式会社 B00K 樋口 聖典 氏

福岡県田川市にある「いいかね Palette」は、旧猪井金小学校をリノベーションした廃校利活用施設である。株式会社 B00K 代表・樋口聖典氏が 2017 年に開設し、「誰もがやりたいことを自由に挑戦できる場」を目指して運営されている。田川市はかつて石炭産業で栄えた地域だが、産業構造の変化に伴い人口減少や高齢化が進み、廃校が増加する中で、その再活用は地域の課題でもあった。

「いいかね Palette」は地方創生交付金を活用してスタートしたが、設立当初は経営未熟さから資金ショートに陥り、倒産の危機に直面した。自治体の支援も難しく、社員全員を解雇する事態となったが、代表の樋口氏は単身で施設に残り、ボランティアや民間企業の協力により再建に挑んだ。映像事業や宿泊サービスの拡充を図る中で、ポッドキャスト「コテンラジオ」が日本ポッドキャスト大賞を受賞。地域の魅力や歴史を発信する拠点として新たな価値を生み出した。

現在も年間 700 万円の赤字を抱えているが、多様な人々が訪れ、自発的に企画・実践する場となっている。経済的には成功とは言い難いものの、人のつながりや創造的活動が生まれる環境は、地域に新しい可能性を示している。成功か失敗かは数字では測りきれず、これからの展開に期待が寄せられる。

6. 所感・感想

2 日間の研修で、持続可能な都市について考察した。自治体としての施策の可能性、また文学の力による地方創生の可能性、そして近世国学からみた地域振興の可能性について、それぞれの立場を通して考える機会をいただいた。これまで気づけなかった視点から本市を見直し、まずは持続化の視点から施策や事業を考えていきたい。また小説やアニメ、映画の舞台に選ばれるようフィルムコミッションへの働きかけも必要であると考えている。

7. 添付書類 開講オリエンテーション資料

